

ほほえみ 第62号



新年、おめでとうございます。2016年を迎えました。雪もなく、穏やかな年初となりました。昨年中は、いろいろとお世話になりました。本年も、何卒宜しく願い申し上げます。一年が経つのが早く感じますが、21世紀になってから、16回目の新年を迎えることになるのですね。21世紀という言葉に、漠然とした夢を感じていた期間は過ぎ去って、21世紀をどう生きるか、どうあるべきか真剣に捉えて実行していかなければならないと、思いを新たにしています。皆様にとって、良き一年でありますように。

前後関係・因果関係

いつも、新年初回のニュースレターは、医学以外のテーマとしていますが、昨年は「時間について」、一昨年は「和み、ユーモア」でした。これは、年末年始にかけて、そのタイミングで思いついたことを書いているのです。今年、書いてみようと思ったことは、前後関係・因果関係ということです。

前後関係というのは、時間の経過順序で物事を理解するというので、多くの場合、前に起こったことが、後に起こったことの原因であるという理解をします。しかし、前後関係が因果関係とならないことも多くあります。道を歩いていたら黒猫が前を横切った。その後、悪いことが起った・・・というような場合、これは事実としての前後関係なのですが、黒猫が前を横切ったから、悪いことが起ったという因果関係ではありません。

黒猫は印象に強いですが、実は、茶トラが横切った時も悪いことが起きていたのかもしれませんが、それは忘れてしまって、今度は、そうだ、そういえばカラスが前を歩いていたから・・・となるのですね。茶トラのせいではなく、より印象の強いカラスのせいということになります。本来、因果関係のないものに、前後関係を因果関係があるように当てはめて考えるというのは、こういった心理ですが、日常生活ではよく経験します。

これに比べると、原因と結果というのは、科学的なように思います。現代人は科学思考が身につけているので、日食が起こったから不吉なことが起こるとは考えません。日食が起こるのは、太陽と地球の間に月が入ったからだ、原因と結果で考えます。

しかし、原因と結果も誤解しやすいものです。一つには、すべての事柄に原因と結果を求めるといふ風になりやすいのです。さらには、原因と結果の考え方を人生に当てはめるといふことです。

良いことにせよ、悪いことにせよ、起こった事柄に原因を求めるのがそうです。科学的な思考では推論の正しさが、定義から始まって確実な論証で結び付けられる場合を演繹法といい、実験のように、条件を揃えて原因を与えた場合に、結果を反復して確認するのを帰納法といいます。しかし、演繹でも帰納でもない形で、原因と結果を推論するのです。きつとそうに違いない・・・？これは、実は科学思考とは別もので、原因・結果という形を借りて個人的な推測をしている訳です。

(次ページへ)



茶柱が立ってるにゃ。でも、ほく猫舌だにゃー。

加えて、人生は実験ではないので、同じことを行っても、同じ結果になるとは限りません。同じ勉強をしても、入試で合格することもあるれば、不合格のこともあり得ます。合格すれば努力したから合格したと思うでしょうが、不合格なら努力以外のものがあるという、運命論的な見方が強くなるでしょう。

こうして考えてくると、前後関係を因果関係で克服するのが科学的な思考ですし、科学的な思考には、前提となる定義や条件設定が必要だということです。実は、一見科学的に見える因果関係という認識法も、さらに克服されるべきものなのかもしれません。この段階こそ、人間の到達する、最も高度な認識力の世界ということになりますね。

かぶら寿司

富山の実家から年末にお餅や蒲鉾に加えて「かぶら寿司」が送られてきました。麴で漬けたかぶらに、魚を挟んで熟れさせたものです。使う魚は家庭やお店によって異なるようですが、しめ鯖や鰯が定番です。

寿司と名前は付いていますが、所謂お寿司というより、発酵食品としての寿司ということです。食べた感触は、かぶの漬物に、しめ鯖が入った感じと言えば良いでしょうか。通常はお正月に丁度、熟れるように見越して、年末に準備する食べ物ですね。北陸以外では(特に富山、石川以外では)あまり見かけない食べ物ですが、冬の北陸の風物詩の一つと思います。



お雑煮

お正月と言えば、お節料理にお雑煮です。お雑煮にも地方ごとに特徴があるようで、お餅の形や醤油仕立て、味噌仕立ての違いなど、東日本、西日本でスタイルがあるようです。富山の実家では、年末にお餅をついて、お正月は沢山お餅の入ったお雑煮を食べる習慣(角餅、醤油仕立て)でしたが、我が家では、カロリー等のこともあり、適度な量のお雑煮を食べています。年末に餅つきする風景も、今は見られなくなり、家の子供はお餅をつく光景は見たことがないということになっています。そのうち、お餅を食べる習慣もお正月らしさがなくなっていくのかもしれませんが、地方ごとの習慣は残って欲しいですね。



MEMO

1月のがん化学療法科の予定

1月1日	元日
1月4日	仕事始め
1月8日	柴田教授外来
1月11日	成人の日
1月22日	柴田教授外来

今年も、よろしく
お願いします。

